

平成 24 年 5 月 10 日

5 月定例所長会見における横村所長挨拶内容

○ 所長の横村でございます。

○ 昨年の福島第一原子力発電所の事故により、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、引き続きご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、あらためて心よりお詫び申し上げます。

○ まずは、当社の総合特別事業計画についてです。

総合特別事業計画につきましては、先月 27 日に、計画の変更について主務大臣へ申請していましたが、5 月 9 日に認定をいただきました。

今後は、この総合特別事業計画に沿って、徹底した経営の合理化を進めながら、福島第一原子力発電所の事故により被害を受けられた方々へ、引き続き親身・親切的な賠償、そして福島第一原子力発電所 1 号機から 4 号機の廃止措置、電力の安定供給、また、当発電所においては必要となる安全対策に着実に取り組んでまいります。

○ 次に、当発電所の状況についてです。

現在、全 7 基が定期検査のためにプラントを停止しております。

今年、定期検査に入りました 5 号機、6 号機につきましては、津波対策工事をはじめ、計画した工事について、安全を最優先に一つひとつの作業を着実に進めております。

津波対策工事の状況についてですが、防潮堤については、現在、1 号機から 4 号機側においては基礎杭の打設工事を行っております。また、5 号機から 7 号機側においてはセメント改良土による盛り土の築堤作業を順調に進めております。

1 号機から 4 号機側で計画しております防潮壁や防潮板については、1 号機の工事が完了し、現在、2 号機から 4 号機において、基礎杭の打設工事を順調に進めているところです。

また、高台に設置しました緊急用高圧配電盤から原子炉建屋内の非常用高圧配電盤への常設ケーブルの布設工事については、先月末までに全号機で工事を完了いたしました。

1号機と7号機においては、これまでに計画している津波対策工事が完了しており、5号機と6号機においても来月には工事を完了する見通しです。

今後も、これらの対策を着実に進め、発電所全体の安全性、信頼性の向上に努めてまいります。

○ 次に、津波堆積物調査など、地震・津波に関する評価についてです。

先月26日に津波堆積物調査に関する評価結果をお示しさせていただきました。調査にあたっては、関係する市町村をはじめ、地域の皆さまからのご協力のお陰で、約半年間で評価結果を取りまとめることができ、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

評価結果については、過去の文献などから確認できる歴史津波の最大高さと概ね変わらないものであり、東北地方太平洋沖地震で発生したような大きな津波の痕跡は確認されておらず、これまでの津波評価に大きな影響を及ぼすような結果はなかったと考えております。

また、同日、原子力施設の耐震安全性に係る新たな科学的・技術的知見の収集及び評価の反映に関する公表をあわせて行っております。富山県や鳥取県、島根県が示した、糸魚川沖の断層の連動や日本海東縁部の津波波源の設定に関する考え方も取り入れ、当発電所の安全性評価を行ってまいります。

加えて、断層の連動性についても、現在、原子力安全・保安院の意見聴取会において審議が進められておりますので、意見聴取会でのご意見なども踏まえながら、発電所への影響について適切に評価を進めてまいります。

○ 最後に、当所の安全対策に関するサービスホールでの説明についてです。

当所のサービスホールへは、去年の震災以降も月平均 3,200 名、年間約 39,000 名と多くのお客さまにご来館いただき、福島第一原子力発電所のこれまでの状況や当所における地震・津波対策、ストレステストの評価結果などについてご説明させていただいております。

震災以降、地域の皆さまへはさまざまな形で情報発信に努めてきておりますが、2月に開催した地域の皆さまへの説明会以降も、サービスホールにおいては、ゴールデンウィーク期間中も含め説明会を計 17 回開催し、地域の皆さまをはじめ広く県内・県外から延べ約 170 名の方にお話を聞いていただきました。

当所においては、今後も引き続き分かり易い情報発信や説明に努め、地域の皆さまをはじめ多くの方々に、発電所における安全対策への取り組みについてご理解いただけるように努めてまいります。

○ 本日、私からは以上です。

以 上

添付) 柏崎刈羽原子力発電所 DATA BOX

プレス公表 (運転保守状況)

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成24年5月)

平成24年5月10日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第16回定期検査中 定検停止期間:H23.8.6~	第15回 H19.5.4~H22.8.4 停止期間 H19.5.4 ~ H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)	第16回定検による停止!												
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3~H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定検による停止!												
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12~H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定検による停止!												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9~H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定検による停止!												
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第13回定期検査中 定検停止期間:H24.1.25~	第12回 H18.11.24~H23.2.18 停止期間 H18.11.24 ~ H22.11.25 (1463日) (原子炉起動H22.11.18)	第13回定検による停止!												
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H24.3.26~	第9回 H22.10.31~H23.3.9 停止期間 H22.10.31 ~ H23.1.26 (88日) (原子炉起動H23.1.23)	第10回定検による停止!												
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H23.8.23~	第9回 H22.4.18~H22.7.23 停止期間 H22.4.18 ~ H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)	第10回定検による停止!												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (4月末現在)

4月	0.0%
24年度累計	0.0%
運転開始後累計	63.0%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (4月末現在)

4月	0
24年度累計	0
運転開始後累計	87,487,412

④ ドラム缶発生量(本) (H23年度第4四半期)

当期発生本数	1,690
貯蔵庫累積貯蔵本数	32,998
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H23年度第4四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,380
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 構内従業員データ(人) (5月2日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	928	2,532	53%
	刈羽村	91	228	5%
	その他	114	1,129	19%
	小計	1,133	3,889	76%
県外		94	1,460	24%
合計		1,227	5,349	—
		6,576		100%
協力企業社数(社)		728		

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が合わない場合がある。

⑦ 来客情報(人) (4月末現在)

	4月	年度累計
地元	1,113	1,113
県内	671	671
県外	494	494
国外	21	21
合計	2,299	2,299

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
5月24日	定例の記者説明会
6月14日	次回定例所長会見

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成24年5月10日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	4月3日	—	屋外作業におけるけが人の発生について（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 平成24年4月2日午前11時15分頃、屋外（荒浜線変電所付近）において、雨水の排水溝設置工事に従事していた協力企業作業員が、U字溝（重量約280kg）の下に台木を設置するために、U字溝を吊り上げて台木を差し込もうとしていた際、吊っていたU字溝が傾き右手の指を挟み負傷したことから、業務車にて病院に搬送しました。</p> <p>（安全性への影響） —</p> <p>（対応状況） 病院における診察の結果、右手中指と薬指の挫滅切断（指先部）と診断され、縫合処置を受けるとともに、経過観察のために2日間入院いたしました。</p> <p><u>原因調査の結果、U字溝吊り上げ専用吊具（Uフック式吊具）ではない汎用品の吊具（スリングベルト）を使用したこと、また使用方法が適切でなかったため、U字溝を吊っていた際にバランスが崩れ傾いたことにより、台木を差し込もうとしていた右手の指をU字溝に挟み負傷したものと推定しました。</u></p> <p><u>対策として、U字溝吊り上げ専用吊具（Uフック式吊具）を使用するとともに、重量物吊り上げ時の遵守事項について、あらためて発電所内に周知徹底を図り、再発防止を図ることとしました。</u></p>
②	4月16日	5号機	タービン建屋（管理区域）における油漏れについて（区分Ⅲ）	<p>（事象発生状況） 平成24年4月13日午前11時28分頃、5号機タービン建屋2階（管理区域）において、パトロール中の当直員が低圧タービン下部エリアの床面に約180ミリリットルの油溜まりを発見しました。漏えいは、主タービンの軸受に潤滑油を供給するラインに設置された差圧計器*のプラグ部から滴下したものであり、連続滴下はなく拭き取りによる清掃を実施しました。</p> <p>（安全性への影響） 漏えいした油には放射性物質は含まれておらず、本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） その後の確認において、平成24年3月22日に当該プラグから空気を抜く作業を実施しており、作業後に当該プラグの締め付けを行い漏えい確認により異常がないことを確認しておりますが、その際、プラグのゴミ噛み、傷等のシート不良により、油がにじみ滴下したものと推定しました。 当該プラグについては点検・手入れを実施しました。</p>